

「宇宙兄弟」(土手)

先日、NASAの火星探査車「Perseverance(パーセピアランス)」が打ち上げから約7ヶ月の歳月を経て、火星に着陸したというニュースを見ました。自粛続きでうち時間が増え、「宇宙兄弟」という漫画にハマってしまっており、私にとって、とても気になる話題となりました。久しぶりに天体望遠鏡を引っ張り出して夜空を眺めてみると、南西の方によく光る赤い点、「火星」を確認することができました。すごいところに行ってるんやなあ。。。🚀🚀🚀🚀

この探査車の名前の発案者は、13歳の中学生で、「忍耐」「粘り強さ」「不屈の努力」といった意味だそうです。そして、緊張の着陸時に開かれたパラシュートの模様には、NASAからの暗号メッセージが隠されていたようです。解読すると「dare mighty things(あえて困難に挑戦を)。」何かとてもかっこいいなあ！

(ちょうど満月の日で、きれいな夜空でした！)→



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【ソサエティー5.0】

仮想空間と現実空間を融合し経済発展と社会的課題の解決を両立する新しい未来社会を指す。内閣府が定義した「第5期科学技術基本計画」に重要な基本指針として掲げられ、狩猟社会(1.0)農耕社会(2.0)工業社会(3.0)情報社会(4.0)に続く5番目の変革として位置づけられた。進化した技術を共有・連携・一元化することにより、少子高齢化や過疎化、貧富の格差などの課題の克服と暮らしやすい社会の実現が期待されている。

知っとこ! 「税務のマメ知識」

【税務署はタンス預金をお見通し?】

個人的な財産について、税務署はどの程度まで把握しているのだろうか。このような疑問を抱いたことはありませんか? 不動産や預金、株などは法務局や銀行、証券会社に問い合わせれば容易に把握できますが、タンスの中の現金までは分からないだろうと思っている人は多いのではないのでしょうか。ところが、これがそうでもないのです。国税庁では適正かつ公平な税金の負担や、その徴収の実現のために申告書の收受や処理、納税者の管理、調査・指導、資料情報の収集や管理、税務に関する相談などといった一連の業務について「国税総合管理(KSK)システム」を使っています。これは全国の国税局と税務署をネットワークで結び、情報を一元的に管理するシステムです。私たちの収入や財産は、給与の源泉徴収票や毎年の確定申告により把握されているのです。例えば、ある家族に相続が発生した場合、被相続人(亡くなった人)の生前の収入からすると2億円ほどの財産があつてしかるべきだとKSKシステムが予想したのに対し、申告書には1億円と記載されていたとします。被相続人が生前に使ってしまったのか、またはタンス預金などで1億円ほど隠し持っているのか。それを確かめるために税務調査官が出向いて真実を追求する流れとなります。悪いことはできない仕組みになっているようです。



今を生きる

先人の言葉

河も水とつけて
いな女は一番
いい匂いにする

古代ローマの喜劇作家であるプラウトゥスの言葉。実際のところそうか否かは分からない(笑)が人間、ありのままに生きたほうがより魅力的だということだろう。